

## レポート! 授業No.044 「御田小学校の図 大きい御田小学校絵地図を描く」

44回目の授業は、東京都港区立御田小学校にて、4年生58名の児童を対象に行いました。講師は美術家の平町 公(いさお)さん(1986年大学院絵画専攻修了)です。今回の授業では、児童4〜5人が1グループとなり、事前に小学校周辺のお寺や教会を取材して集めたスケッチを元に、学校を取り巻く風景やそこに暮らす人々の顔を、高さ1m、長さ40mのキャンパスに共同で描きました。取材を通して人と出会い、地域を再発見することの面白さを知ると共に、製作では、共同で大きな絵を描く喜びを体験する事で、「人は人との関わりの中で生きていく」視点から児童のたくましく「生きる力」を育む授業です。

2013.2.15 fri. 08:45〜 09:30

講師作品紹介・絵地図の描き方の説明(体育館)

2006年に描かれた作品「京浜工業地帯の掟・三部作 羽田沖の図」を前に、平町先生が大きな絵を描き始めたきっかけや、絵を描き続けることへの思いを語りました。「好きなことを続けたいと思ったら、諦めない。」説得力のある言葉です。授業では「京浜工業地帯の掟・三部作 羽田沖の図」の一部(縦2m、横10mのキャンパスを上下に2枚並べています)を紹介しましたが、実際の作品はこの6倍、体育館の床一面を覆い尽くすほどの大きさがあります。部分とはいえ作品の大きさと、実物ならではのダイナミックな絵に児童も驚いた様子で見入ります。

そして、授業のお話です。事前に取材したスケッチを元に、平町先生がいつも描いている方法で、学校を取り巻く風景やそこに暮らす人々の顔を大きなキャンパスに描き、御田小学校の絵地図をつくります。「1人ではなく、グループで力を合わせて製作してください。」と平町先生。今回は、体育館の壁とほぼ同じ長さの20mのキャンパスを2本、12グループが分担して描きます。1グループが描く長さは約2m80cmです。ルールは、自分たちの道と隣のグループの道をつなぐこと。隣同士の道をつなぐと、御田小学校のまわりを一周するような長い道が出来上がります。

次に描き方の説明です。2月2日(土)に取材し、8日(金)の図工の授業で原寸大の模造紙に描いた下絵を、キャンパスに木炭で写します。立ったままで描けるように、木炭は長い棒につけて使います。描画用の木炭は柔らかく、強く描くと濃く太い線に、弱く描くと柔らかくて細い線にと、力の入れ加減によってさまざまな線を描くことができます。その後は、黒い絵の具で輪郭を描きます。習字用の筆を使うため、太い線も細い線も自由自在。たっぷりと絵の具をしみこませれば長い線を描くこともできます。木炭の線をそのままぞるのではなく、新たな線を描く気持ちで描くとよいそうです。

早速、製作開始です! 初めとは思えないほど、棒についた木炭を使いこなしている児童たち。腕をのばし、身体全体を使って描くのは気持ちよさそうです。大きな画面にのびのびと、ダイナミックな線が描かれていきます。棒の先を持って、細部も描き込めます。12のお寺と1つの教会に囲まれた御田小学校。建物の他にも、五輪塔やお地藏様など地域ならではの風景が描かれています。取材でお世話になったご住職様が登場しているグループもありました。

09:35〜10:20 (2時間目)

絵地図を描く〜線で描く〜

黒い絵の具で輪郭を描きます。モチーフやエリアごとに担当を決めて手分けするグループもあれば、端から一斉に描いていくグループもあり、進め方もさまざまです。友達とアイデアを交換したり、平町先生と相談しながら製作を進めます。

10:40〜11:25 (3時間目)

11:30〜12:15 (4時間目)

絵地図を描く〜色を塗る〜

まずは平町先生の実演です。刷毛を使い、道を黄色で塗ります。そして、空以外の場所を黄土色で、木や木造建造物を焦げ茶色で塗っていきます。アクリル系の絵の具を使っているため、少し薄めに溶いた絵の具を黒い線に重ねると下の線が透けて見え、色が重なって絵に深みができます。絵の具が乾いていなくても、色をのせていくと、色が混ざりながらさまざまな表情を生みだします。色が入ることで変わっていく絵の印象を、児童たちは真剣な表情で見守ります。

細い筆を刷毛に持ち替えて、いざ実践。黄色が増えるにつれ、1本の長い道が浮かび上がります。木造建造物や木を焦げ茶色で塗ったら、コンクリートや空、植物や朱塗りの門などに少しずつ他の色を加えていきます。中には指先を使って、隙間に色を塗る児童も。道具を駆使してイメージを形にしていきます。ペースをあげて描いていく児童たち。4時間目にして既に白い所がないほど絵の具が塗られ、スタッフの描画時間が足りないんじゃないか?という心配は、取り越し苦労に終わりました。



13:35〜14:20 (5時間目)

絵地図を描く〜仕上げ〜

再び黒い絵の具でアクセントになるように輪郭を描いたり、文字を書いて全体を仕上げます。黒が入るにつれ、絵が強く引き締まった印象に変わります。授業の途中で児童が取材した魚籃寺(ぎょらんじ)のご住職様が見学に来てくださいました。平町先生とお話するご住職様。児童の絵にも描かれています。授業をきっかけに小学校と地域の人がつながっていくのはステキなことです。小学校側からも感謝の言葉を頂きました。

14:25〜15:10(6時間目)

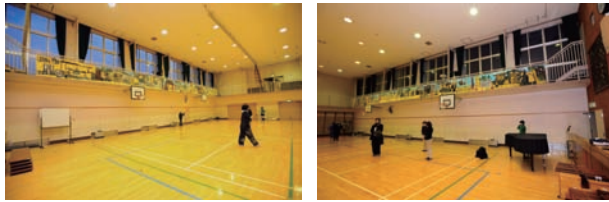
発表会

グループごとに描いた絵の前に立ち、平町先生からインタビューを受けます。「頑張った所はどこかな?」「建物を描いていて、小さい所に文字を描くのが大変だったけど、班の人が手伝ってくれて描けました。」「鐘の形です」「取材の時、何分間も何分間も鐘の所に立って、頑張ってたってスクッチしていたのを見ていたよ。そういうのが絵にでているよね。」

まとめ

平町先生のお話です。「仲間と一緒に相談しながら描けましたか?一生懸命やった人は自分で頑張ったと言えると思います。私は作品をつくる時に、ひとつ一つをやりきったという気持ちで続けています。その積み重ねがとても大事だと思うので、皆も、人の中で生きていること、やりきる気持ちを大事にしながら、自分の好きなことをずっと続けられるような人になってほしいと思います。」

お話の後、道に沿って一周、全員で歩いてみました。御田小学校を取り囲む風景や人々が次々と現れます。取材から授業まで、多くの人と出会い、関わり、一緒に作りあげた御田小学校の絵地図。人とつながることの豊かさ、モノを創りだす喜び、友達と協力して一つのことをやり遂げる楽しさを授業を通して感じてもらえたら、これ以上嬉しいことはありません。作品は授業後に体育館に長期展示し、一般公開しています。



■おわりに

授業の実施にあたり、港区立御田小学校 高橋康夫校長先生、馬場千鶴子副校長先生、図工専科の辻 美知子先生、4年1組の牧野すみれ先生、4年2組の三田綾乃先生をはじめとする先生方に、多大なご理解とご協力をいただきました。児童の取材活動につきましては、玉鳳寺、魚籃寺、正覚院、正山寺、荘厳寺、徳玄寺、南臺寺、薬王寺をはじめ多くの関係者の皆様に格別なご配慮とご協力をいただきました。

※下記は完成した「御田小学校の図」 上段:4年2組、下段:4年1組



講師 美術家 平町 公(いさお)氏 (1986年大学院絵画専攻修了)

2012年度第44回多摩美術大学校友会主催御田小学校出前授業 平町公の巻を終えて

この度の出前授業をおこなうにあたり、御田小学校の辻先生より、「たくましく生きる力を身につけよう」という、ねらいの依頼を受けました。御田小学校の周りには、江戸時代から続くたくさんのお寺がありますが、地域のお寺の方々と児童の皆さんとの交流は、これまでなかったそうです。今回、4年生の皆さんは、先生方や保護者の方々とともに自分たちの町を歩き、お寺のご住職を取材して有意義な交流を持ちました。そして、その後の製作においては、大変意欲的に取り組んでいました。

私たちは、一生のうちに、たくさんの人と出会い、さまざまな関係を構築します。今回の出前授業では、一つの作品を製作する上で、グループごとに分担を決め、取材をし、描くことを進めていきました。それはまさに、絵画製作の活動を通して、児童の皆さんひとりひとりが、たくさんの人との関わりの中で生きる力を発揮してみる、という学習の場になったように思います。

